

下りに入った所で、右膝に痛みが、10歩走って歩きの繰り返しになり、ついに走れなくなる。(後で気づいたが、高野山の10Kmの下りと、ロングタイツからハーフタイツに着替えたため、膝に極度の負担がかかった。また体重が、重すぎた。) こうなっては仕方が無い、歩くしかない。いつかインターネットのウルトラマラソン完踏記で10分/Kmで歩けばなんとかなると書いてあった。それを信じ完踏しか考えず、ひたすら歩く。疲れても痛くてもひたすら歩いた。復路20Km付近で嬉しいことに、会長、宮下さん、堀池さんの3人が応援に駆けつけてくれた。丁度気が減っていた時で、会長に「このままのペースで行けば歩いてゴール出来る。」その言葉を信じてひたすら又歩くことにする。黒川峠の上り下りのきついこと、よく夜中にこんな峠を走ったものだ。と思いつつ通過、そこから桃山町の役場まで又なんと長かったこと。役場近くで応援に駆けつけてくれていた岡田さんに「車乗るか。」と急に声をかけられた時には、思わず大会関係者にリタイアを勧められたと思ひ、ヒヤリとしましたが、丁重にお断りし、また歩きだす。会長一行に、車で行きつ戻りつ応援を受けながら、何とか復路40Km付近ついに4時間後にスタートした岡田さんに追付かれてしまいました。

岡田さんから「大丈夫か」と声をかけられ、「もうだめ走れません、歩いていくので先に行ってください。」と言うと、なんと伴走してくれるとのこと、思わず第1回目の涙がじわっと湧いてきましたが、辛抱、又岡田さんから復路50Km高速道路と歌山インター南口まで17時までに着かないと制限時間にしんどいと言われ、そこから岡田さんとあの信号まで、あの電柱までと右足膝が壊れそうになるのを我慢しながら必死で走りました。(今までの人生で一番しんどかったかも。) その間、真鍋さんご家族も、応援に駆けつけていただき、私の周りには、岡田さん、会長、宮下さん、堀池さん、真鍋さんご家族と、たくさんの応援の方々にサポートしていただき、やっとの思いで17時前に、インター南口に到着、岡田さんから完走間違いなし。と言われ2回目の涙を辛抱、残り5Kmを必死で歩き、岡田さんと手をとり並んでゴール。(17時間26分57秒) 真鍋さんの顔を見て、3回目涙が、これは我慢できず、46歳のおっさんが感激の涙。しんどかったが、夢を見ていたような夜間走、地獄のような昼間の復路、途中携帯で応援いただいた方々、岡田さん、森野君はじめ、サポートしていただいた方々のおかげで、ウルトラ初完踏。ありがとうございました。帰途、来年はもう少し余裕でゴールし、今年あまりの疲労でレース後飲めなかったビールをおもいきり飲みたいと思いました。

以上

第18回和歌山城～高野山往復110Kmウルトラマラソンに参加して

和田 年弘

フルマラソンで4時間をわずかに1度しか切った事がない私には、100Kmを超えるウルトラマラソンというものは雲の上の鉄人レースだと思って躊躇していました。それが5月9日(日)の例会の後、今仁さん萩往還250Km完踏のお話を聞き感動し、私もウルトラマラソンにやっぱり挑戦しようと心に決めました。参加するレースは地元で、お金もあまりかからない[和歌山城～高野山ウルトラマラソン]、後日岡田さんから申し込み用紙を頂き、思い切りが大事だとすぐに申し込みました。5月、6月、8月月間走行距離各200Kmを超え(その間47Km、58Kmとロング2回)順調に進んでいましたが、無理がたたったのか、強度の腰痛に見舞われ全治4週間、やっと走れるようになり一か八か10月17日(日)レースに臨みました。

前日の午後10時頃森野君と南海泉佐野駅で合流し、11時に受付を済ませいよいよ0時スタート(0時スタートは57名)私は申し込みが早かったのかゼッケン4番、皆さん余裕のありそうな顔、記念写真を撮ってもらい時報とともにスタート、森野君についていこうとしたが、ペースダウンし後方から周りの様子を伺いつつ森野君の点滅ライトを見失わないよう走る。誰かの完走記に、オリオン座を見ながら走ると有ったが星座を見るには首をかなり上に向けなければならず、時々見ながら走る。20Km桃山役場手前ローソンで小休止トイレを済ませ、水と途中で食べるパン(なぜかカレーパン)を買い、森野君と出発、ここから森野君と高野山大門手前まで追いつき、放されの繰り返し、ヘッドライトだけが頼りの初の山道夜間走、2つの峠を歩いたり走ったりしながらようやく越え、花坂あたりでやっとな夜明け、矢立到着5時49分ここから約10Km大門までの坂をほとんど歩き大門到着7時過ぎ、写真を撮ってもらい、折り返しまでまだ2.5Km、やっとの思いで大門手前の休憩所に到着。

やれやれの思いで、カップラーメン、おにぎりをいただき朝食をすます。長袖Tシャツを半袖に、ロングタイツをハーフタイツに着替え、20分後に森野君と共に出発、大門でトイレに行きたくなり森野君と離れる(結局その後森野君とは、ゴールまで会うことはありませんでした。)同じ0時スタートの人とすれ違いながら坂道を下りていくが、かなり足にきているのがわかる。なんとか、矢立の手前まで降りると、すれ違った人から「もうすぐ、泉南走ろう会の人来るで。」と言われ、まさかと思ったが、その後すぐに4時スタートの岡田さんが上ってくるでは、ありませんか。(私の予想では梨子ノ木峠あたりで、すれ違おうと予想していた。やはり岡田さんは怪物だ。)岡田さんに写真を撮ってもらい、再スタート、何人かに抜かれながらも、梨子ノ木峠を走ったり、歩いたりしながら何とか登りきる。